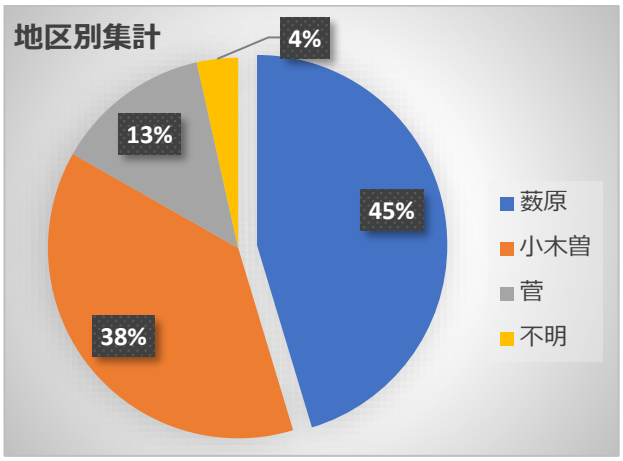
令和３年度　やぶはら高原スキー場に関するアンケート集計結果

●配布数　　2,435 人（薮原 1,148、小木曽 932、菅 355）
●回収数　　1,341 人（薮原 608、小木曽 508、菅 178、不明 47）
●回収率　　55.1%（薮原 52.9%、小木曽 54.5%、菅 50.1%）

1．あなたの地区、年齢、性別を教えてください。

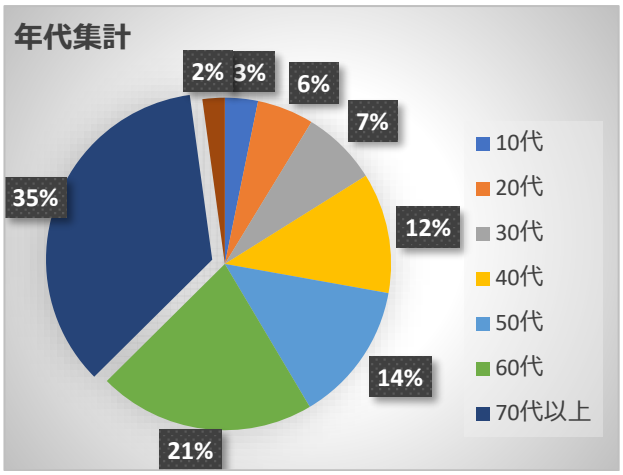
〔地区：人〕



村全体の回収率は 55.1%となりました。地区別に見ますと小木曽地区が 54.5%、薮原地区が 52.9%、菅地区が 50.1%となっています。

薮原	608
小木曽	508
菅	178
不明	47
計	1,341

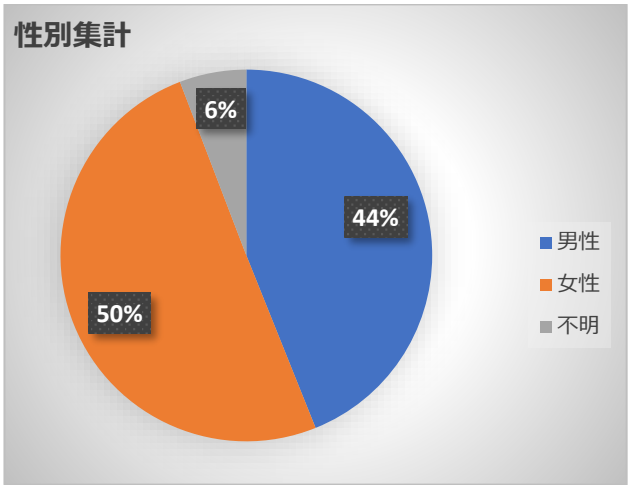
〔年齢：人〕



村全体の人口比率に概ね比例しています。

10代	43
20代	74
30代	99
40代	157
50代	183
60代	283
70代以上	473
不明	29
計	1,341

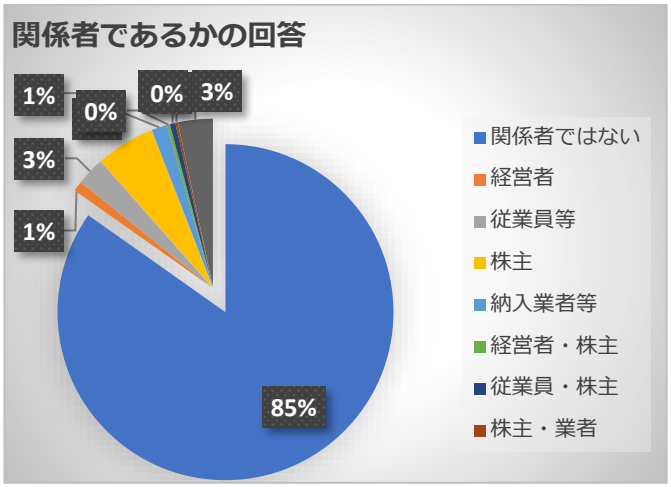
〔性別：人〕



村全体の男女比率に概ね比例しています。

男性	589
女性	674
不明	78
計	1341

2．あなたは、やぶはら高原スキー場の関係者ですか。(複数回答可)

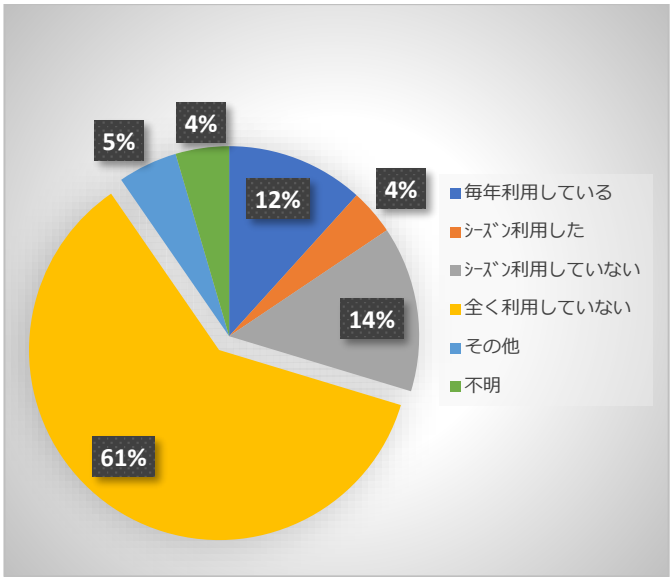


スキー場に関係のない方が 85％を占めています。

関係者ではない	1,137
経営者	13
従業員等	36
株主	76
納入業者等	20
経営者･株主	4
従業員･株主	7
株主･業者	3
不明	45
計	1,341

3．あなたはお客（スキーヤーやスノーボーダー）として、やぶはら高原スキー場を利用していますか。(１つ選択)

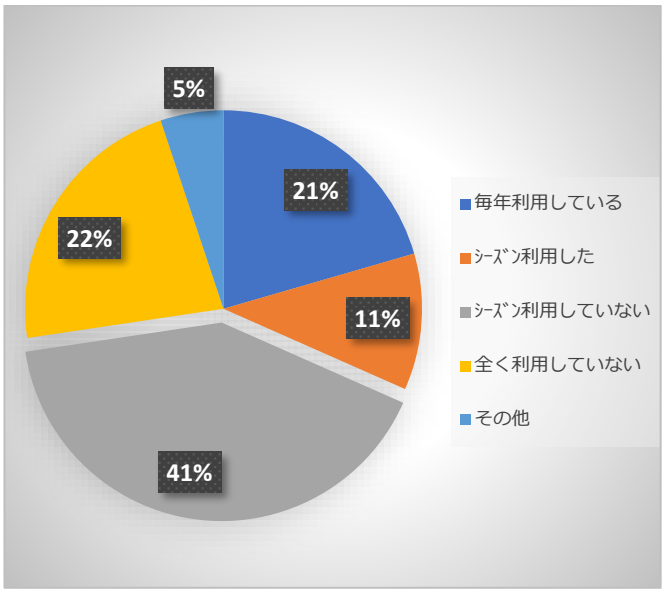
〔全体〕



スキー場を「まったく利用していない方」が６割を超え、「今シーズン利用しなかった」14％の方を含めるとスキー場を利用していない方は 75％となっています。一方、スキー場を利用した方は 16％となっています。

毎年利用している	157
ｼｰｽﾞﾝ利用した	52
ｼｰｽﾞﾝ利用していない	189
全く利用していない	814
その他	68
不明	61
計	1,341

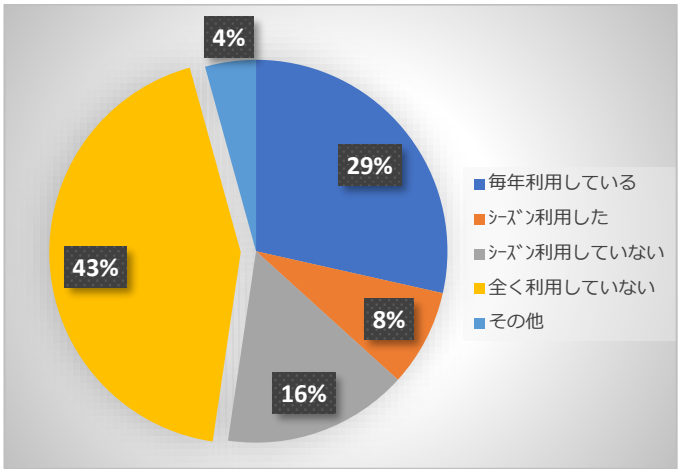
〔10～20 代の回答〕



「今シーズン利用していない方」や「全く利用していない方」が 63％となっています。「利用した方」は 32％となっています。

毎年利用している	24
ｼｰｽﾞﾝ利用した	13
ｼｰｽﾞﾝ利用していない	48
全く利用していない	26
その他	6
計	117

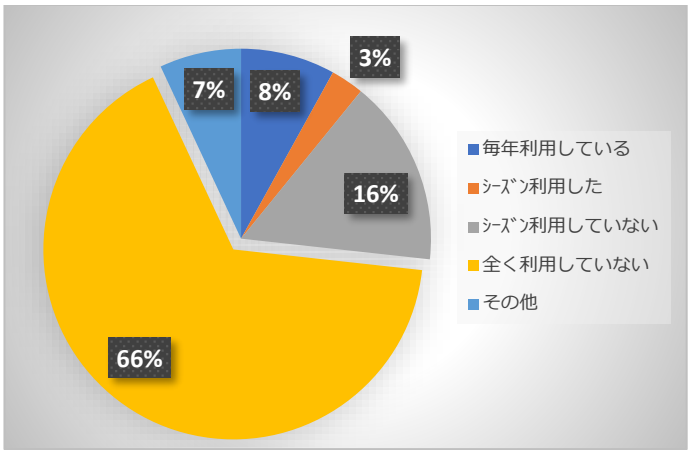
〔30～40 代の回答〕



スキー場を利用した方が 37%、利用していない方が 59%となっており、他の年代と比較すると利用者している方が多くなっています。

毎年利用している	73
ｼｰｽﾞﾝ利用した	21
ｼｰｽﾞﾝ利用していない	40
全く利用していない	111
その他	11
計	256

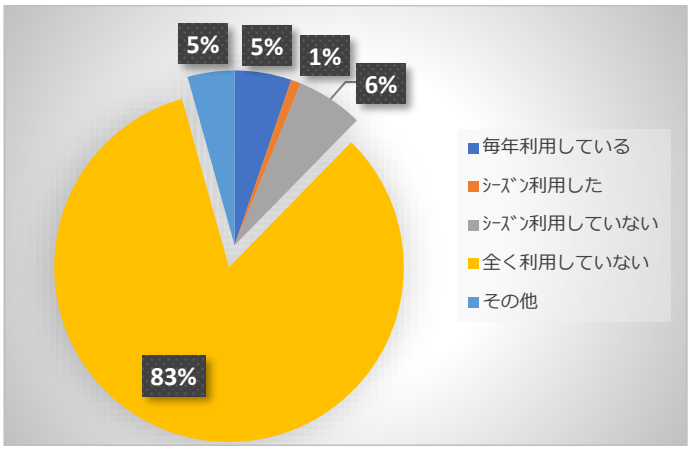
〔50～60 代の回答〕



スキー場を利用した方が 11%、利用していない方が 82%となっています。

毎年利用している	37
ｼｰｽﾞﾝ利用した	13
ｼｰｽﾞﾝ利用していない	73
全く利用していない	305
その他	32
計	460

〔70 代以上の回答〕



スキー場を利用した方が 6 %、利用していない方が 89%となっています。

毎年利用している	23
ｼｰｽﾞﾝ利用した	4
ｼｰｽﾞﾝ利用していない	27
全く利用していない	365
その他	19
計	438

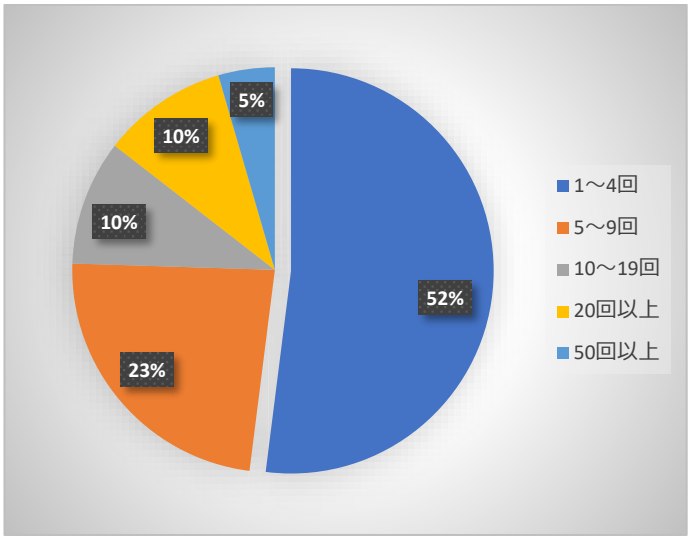
【スキー場利用度の考察】

小学生以下の子どもや、このアンケートに答えていない方が含まれないため、一概に言えませんが、村民の約２割程度の方々がスキー場を利用している結果となりました。
中でも若い年代ほど利用する方の率が高くなっています。

4．「3」で今シーズンスキー場を利用した方に伺います。（1つ選択）

あなたは今シーズン（2020-2021年）どの程度スキー場を利用しましたか

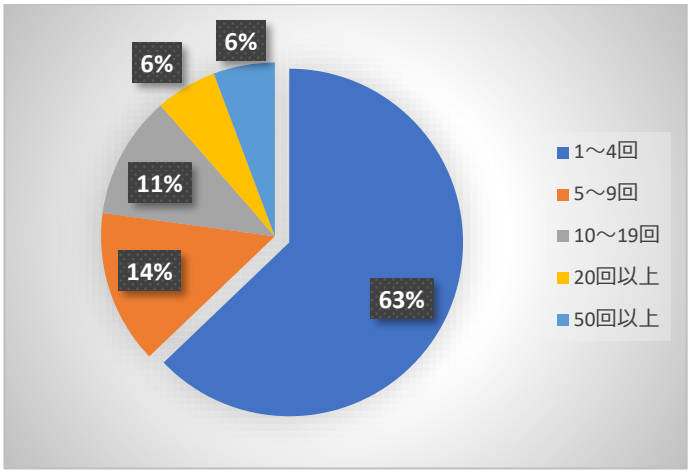
〔全体〕



スキー場を利用している方の中で、利用した回数が4回以下の方の割合が52%と最も多く、次いで9回までが23%となり、10回以上利用している方は 25%となっています。

1～4回	104
5～9回	47
10～19回	20
20回以上	20
50回以上	9
計	200

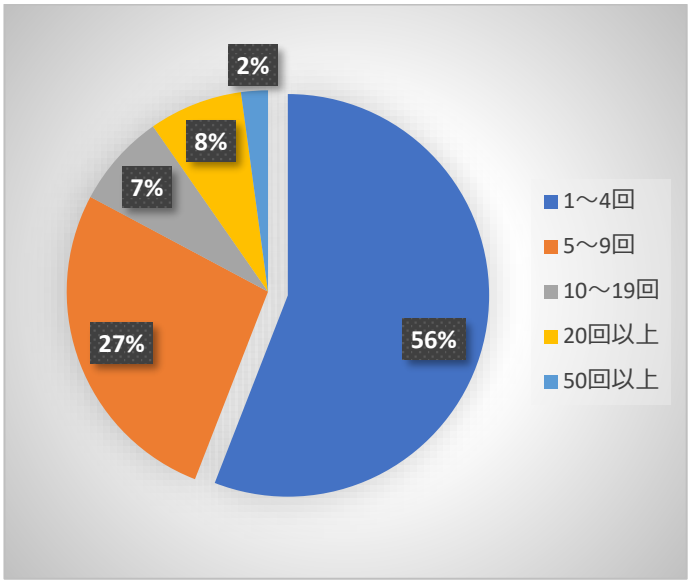
〔10～20代の回答〕



4回までの利用した方が 62%を占めています。

1～4回	22
5～9回	5
10～19回	4
20回以上	2
50回以上	2
計	35

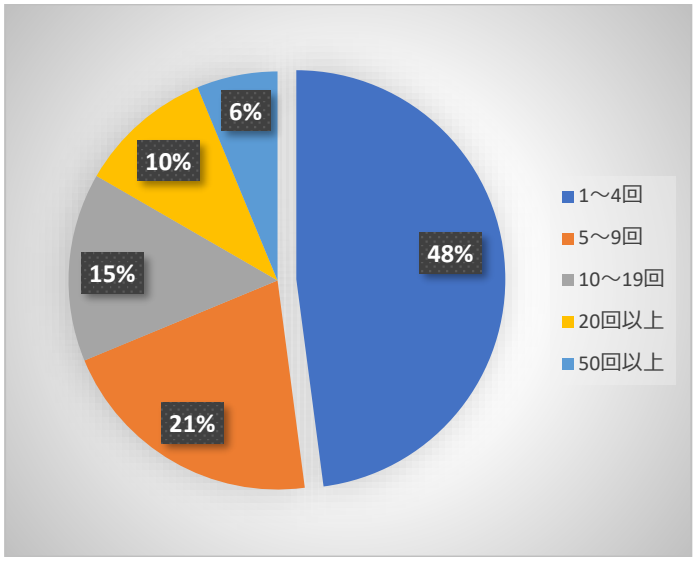
〔30～40代の回答〕



10～20代と比較しますと、5～9回利用した方の割合が多いことがわかります。

1～4回	52
5～9回	25
10～19回	7
20回以上	7
50回以上	2
計	93

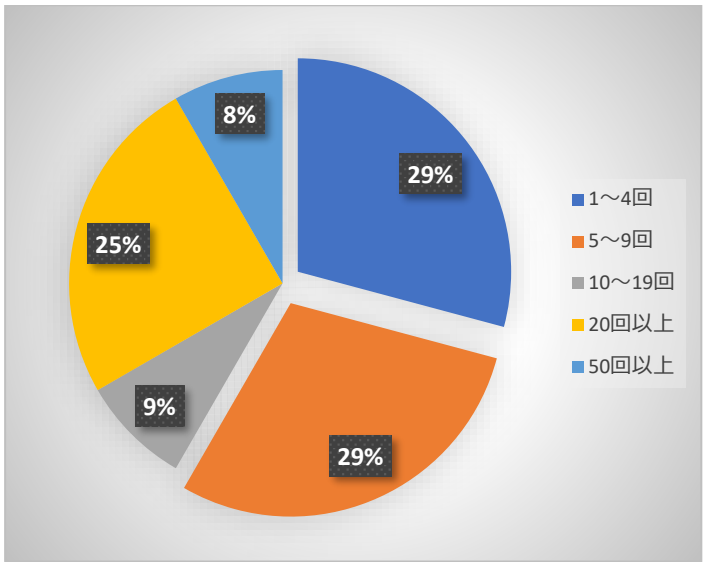
〔50～60 代の回答〕



全体の利用人数は少ないものの、回数の多い方の割合が高くなっています。

1～4回	23
5～9回	10
10～19回	7
20回以上	5
50回以上	3
計	48

〔70 代以上の回答〕



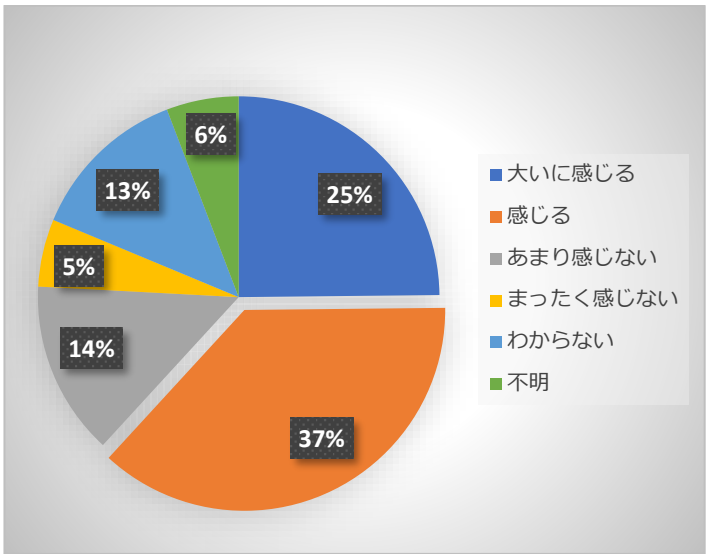
高齢になるにつれ、利用回数が多い方の割合が増えているのがわかります。

1～4回	7
5～9回	7
10～19回	2
20回以上	6
50回以上	2
計	24

【スキー場利用回数の考察】

１人の人がスキー場を利用する回数は、年齢が高くなるほど、多いことがわかりました。スキー場を利用している方１人あたりのシーズン中に利用する平均回数は 9.9 回（約 10 回）となります。

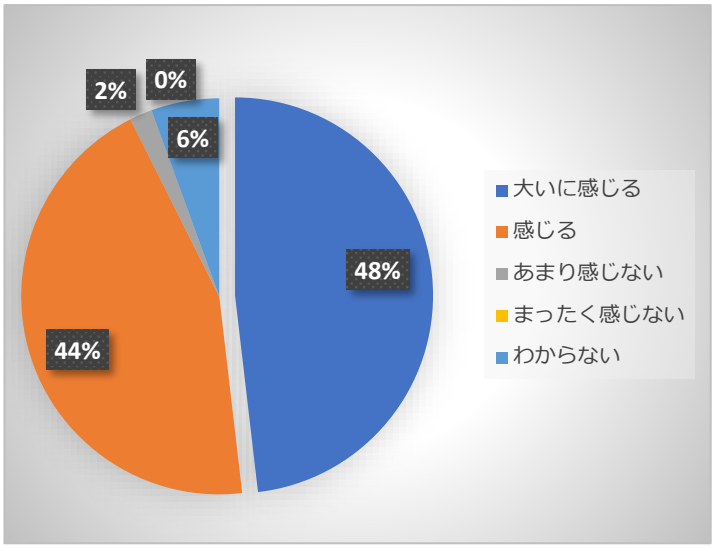
5．あなたは、木祖村にとってやぶはら高原スキー場が存在する意義（意味）は大きいと感じますか。（１つ選択）



「大いに感じる」及び「感じる」を合わせ、存在意義を感じている方は全体の 62％となりました。

大いに感じる	333
感じる	496
あまり感じない	188
まったく感じない	73
わからない	173
不明	78
計	1,341

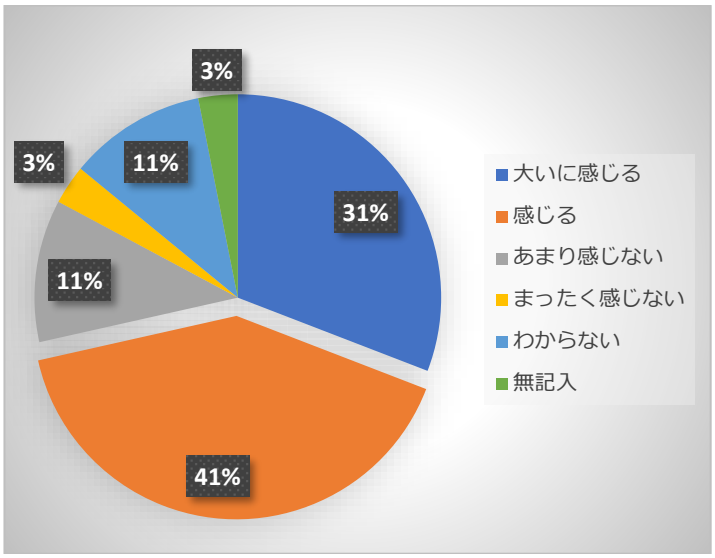
〔10～20 代の回答〕



10～20 代では「大いに感じる」又は「感じる」と答えた方が多く 9 割を超えています。

大いに感じる	26
感じる	24
あまり感じない	1
まったく感じない	0
わからない	3
計	54

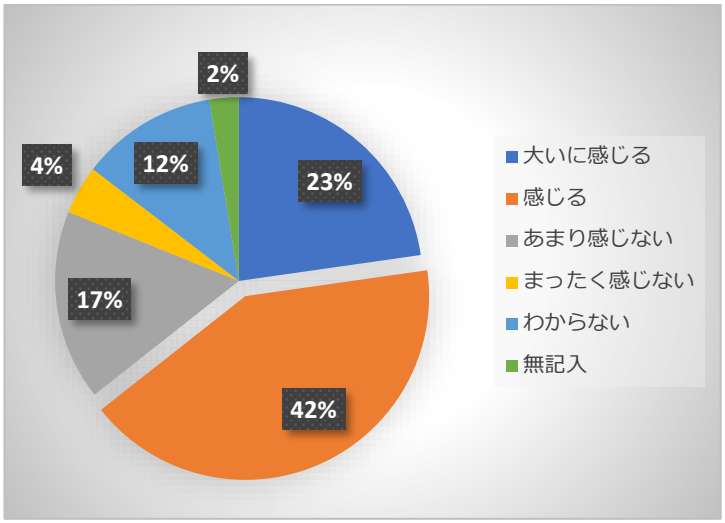
〔30～40 代の回答〕



30～40 代では「大いに感じる」又は「感じる」と答えた方が 72%となっています。

大いに感じる	79
感じる	104
あまり感じない	29
まったく感じない	8
わからない	28
無記入	8
計	256

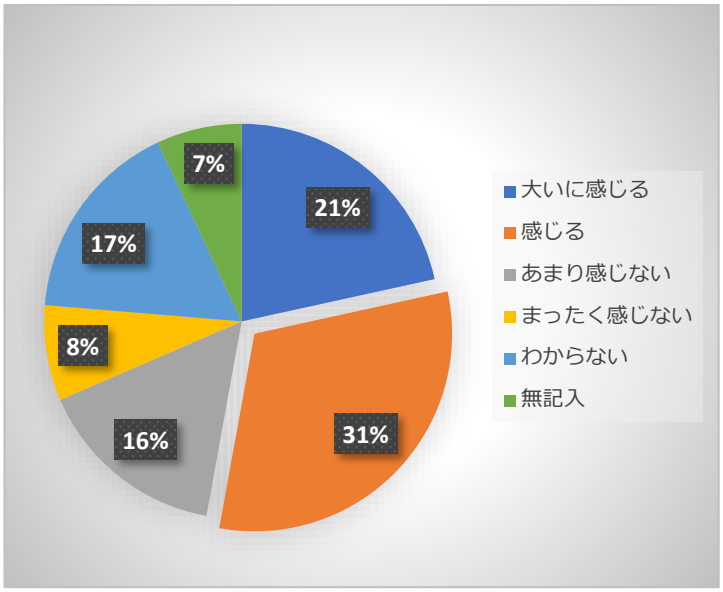
〔50～60 代〕



50～60 代では「大いに感じる」又は「感じる」と答えた方が 65%となっていますが、を超えていますが、存在意義を感じない方の割合も多くなっています。

大いに感じる	106
感じる	194
あまり感じない	78
まったく感じない	20
わからない	56
無記入	12
計	466

〔70 代以上〕



70 代以上では存在意義を感じている方は約半数で、「感じていない」あるいは「わからない」と答えた方が約 4 割います。また、「全く感じない」と答えた方が 8 %で他の年代と比較すると多くなっています。

大いに感じる	102
感じる	148
あまり感じない	74
まったく感じない	37
わからない	79
無記入	33
計	473

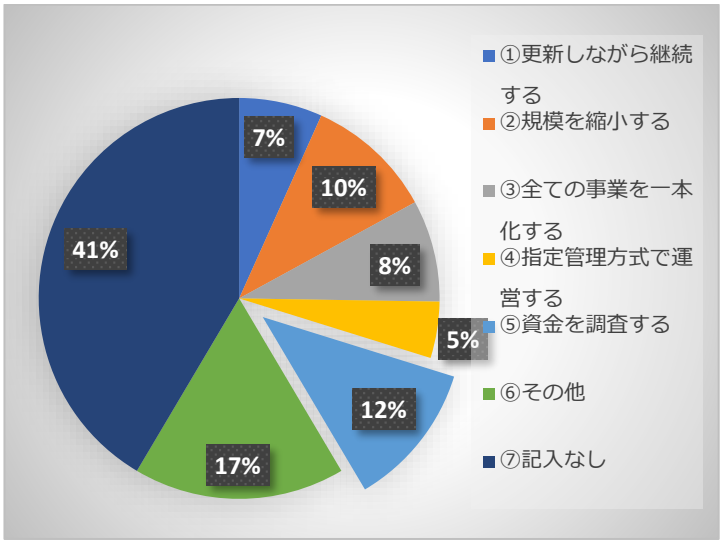
【存在意義の感じ方の考察】

若い方ほど、スキー場の存在意義を感じている方が多い結果となりました。

6．スキー場に対する考え方についてお尋ねします。

①スキー場を継続する場合、今後どのように運営していくのが良いと思いますか。

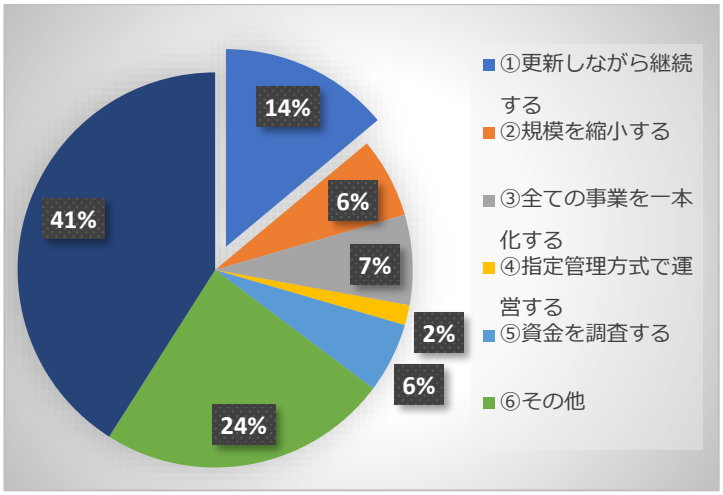
〔全体〕



「その他」及び「記入なし」を除いた場合、クラウドファンディングなどの「資金を調達して運営する」と言う回答が最も多く 12％でした。

①更新しながら継続する	99
②規模を縮小する	152
③全ての事業を一本化する	121
④指定管理方式で運営する	67
⑤資金を調達する	172
⑥その他	251
⑦記入なし	611
計	1,473

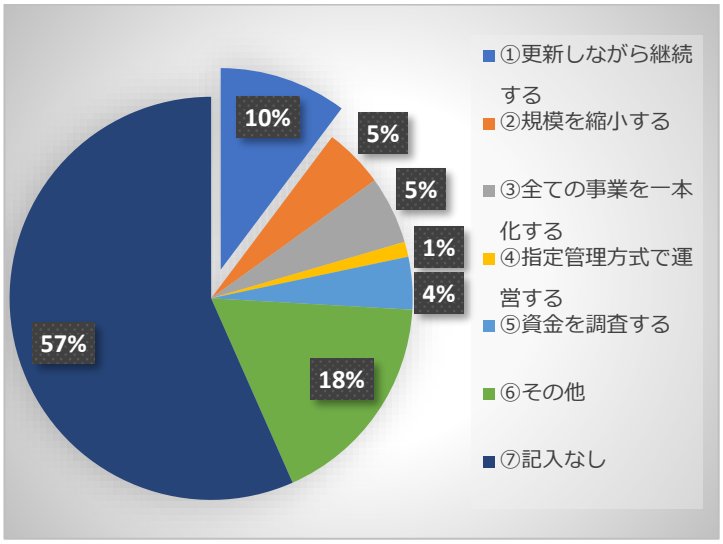
〔10～20 代の回答〕



10～20 代では、「更新しながら継続する」と言う回答が最も多く 14％でした。

①更新しながら継続する	17
②規模を縮小する	8
③全ての事業を一本化する	9
④指定管理方式で運営する	2
⑤資金を調達する	7
⑥その他	29
⑦記入なし	50
計	122

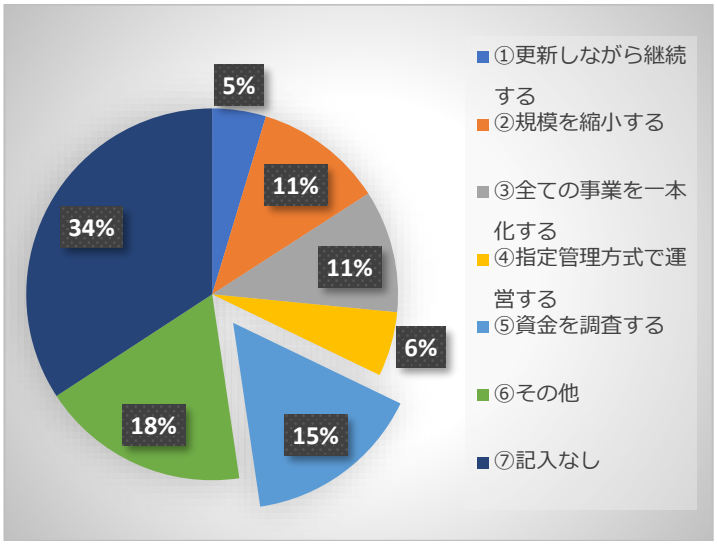
〔30～40 代の回答〕



30～40 代でも「更新しながら継続する」が最も多く 10％でした。

①更新しながら継続する	17
②規模を縮小する	8
③全ての事業を一本化する	9
④指定管理方式で運営する	2
⑤資金を調達する	7
⑥その他	29
⑦記入なし	94
計	166

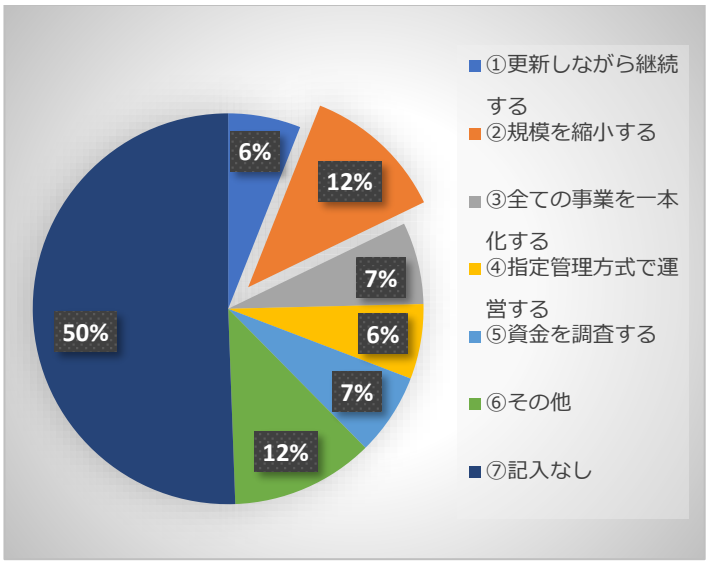
〔50～60 代の回答〕



50～60 代では「資金を調達する」と言う回答が多く 15%となりました。

①更新しながら継続する	25
②規模を縮小する	60
③全ての事業を一本化する	57
④指定管理方式で運営する	30
⑤資金を調達する	83
⑥その他	97
⑦記入なし	183
計	535

〔70 代以上の回答〕



70 代以上では「規模を縮小する」と言う回答が最も多く 12%となりました。

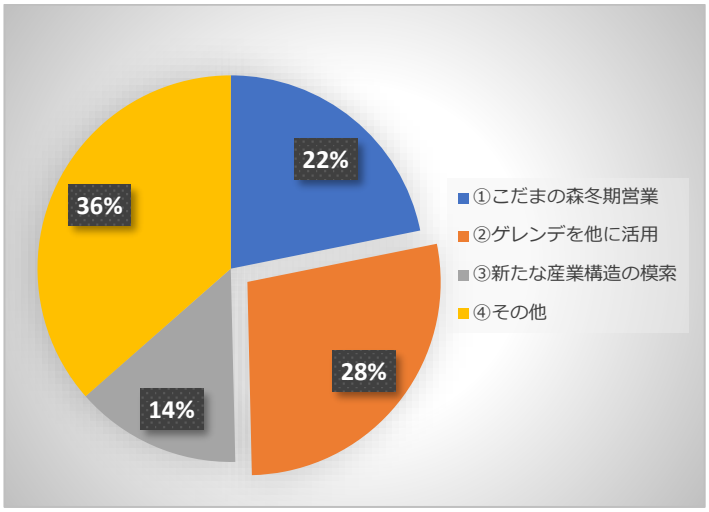
①更新しながら継続する	31
②規模を縮小する	61
③全ての事業を一本化する	35
④指定管理方式で運営する	32
⑤資金を調達する	35
⑥その他	61
⑦記入なし	261
計	516

【継続する場合の運営方法の解説】

「その他の意見」や「記入していない」方を除くと「クラウドファンディングなどで資金を調達して継続する。」と考える方が最も多く 12%となり、次いで「規模を縮小し継続する」と考える方が 10%となりました。
また、「全ての事業を一本化する」と考える方が８％、「指定管理方式で運営を行う」と考える方が５％となりました。

②スキー場を廃止する場合、村の産業振興や雇用創出についてどのような施策があるとお考えですか。

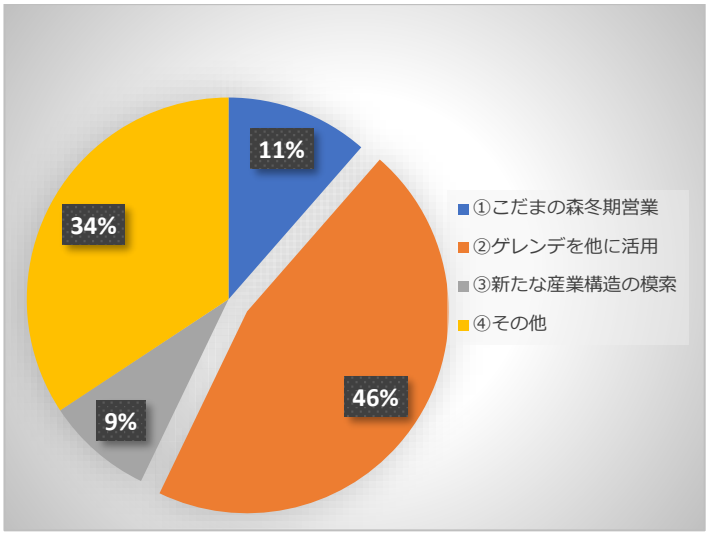
〔全体〕



全体では「その他」を除けば「ゲレンデを他に活用」が最も多く28%でした。

①こだまの森冬期営業	88
②ゲレンデを他に活用	112
③新たな産業構造の模索	56
④その他	147
計	403

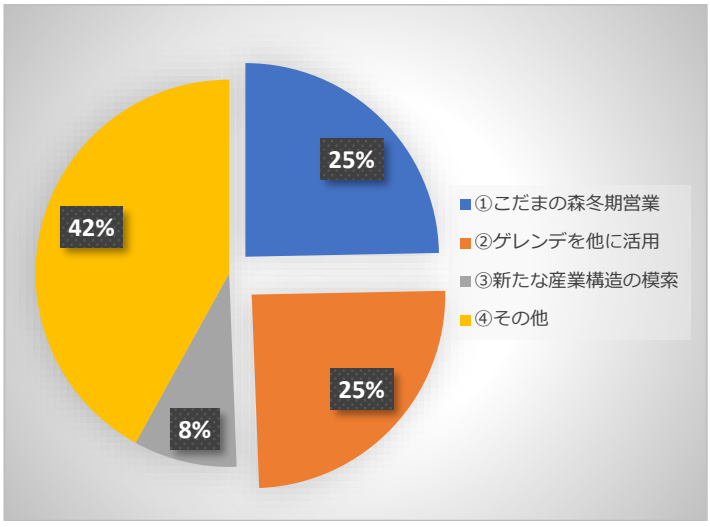
〔10～20 代の回答〕



10～20 代の回答では「ゲレンデの活用」が最も多く46%となりました。

①こだまの森冬期営業	4
②ゲレンデを他に活用	16
③新たな産業構造の模索	3
④その他	12
計	35

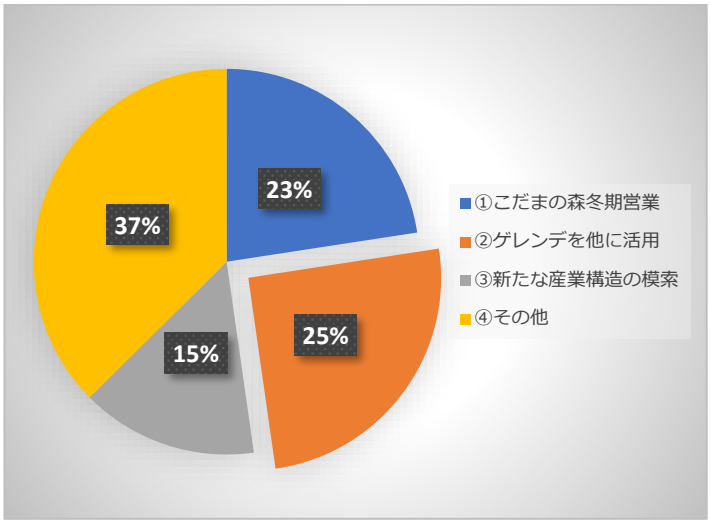
〔30～40 代の回答〕



30～40 代の回答では「こだまの森の冬期営業」及び「ゲレンデを他に活用」が同数でそれぞれ 25%となりました。

①こだまの森冬期営業	20
②ゲレンデを他に活用	20
③新たな産業構造の模索	7
④その他	34
計	81

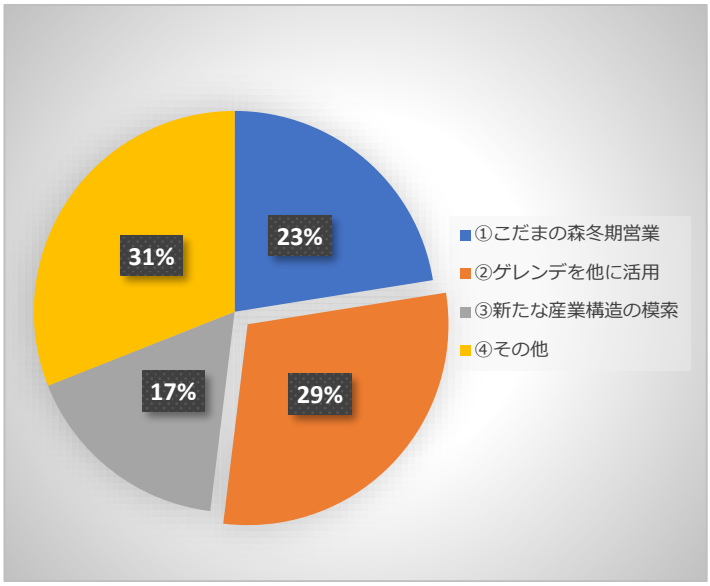
〔50～60 代の回答〕



50～60 代の回答では「ゲレンデを他に活用」が最も多く 25％となりました。

①こだまの森冬期営業	35
②ゲレンデを他に活用	39
③新たな産業構造の模索	23
④その他	58
計	155

〔70 代以上の回答〕



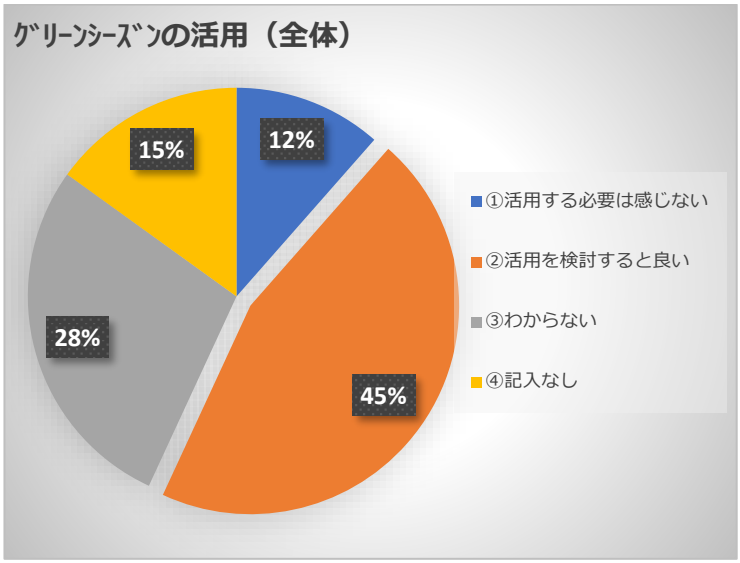
70 代以上の回答でも「ゲレンデを他に活用」が最も多く 29％となりました。

①こだまの森冬期営業	29
②ゲレンデを他に活用	38
③新たな産業構造の模索	22
④その他	40
計	129

【スキー方を廃止する場合の施策等についての考察】

スキー場を廃止する場合においても、「ゲレンデを活用した事業を考える。」と答えた方が最も多く、全体の 28％を占めました。特に 10～20 代でその割合は高く 46％で約半数を占めています。
「新たな産業構造を模索する」と考える方は、年代が高い方が多くなっています。

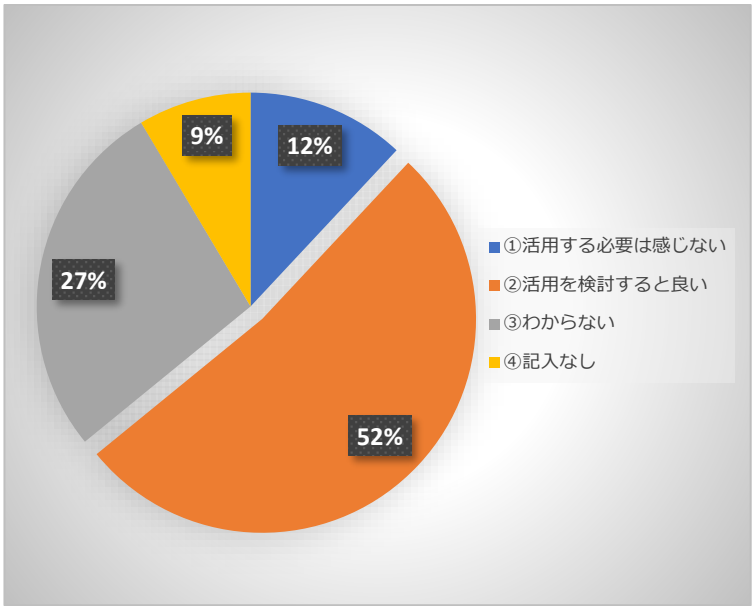
7．スキー場の夏場（グリーンシーズン）の活用についてどのように思いますか。（１つ選択）



全体の回答では、「グリーンシーズンの活用を検討すると良い」と考える方が多く 45％なっています。

①活用する必要は感じない	154
②活用を検討すると良い	609
③わからない	376
④記入なし	202
計	1,341

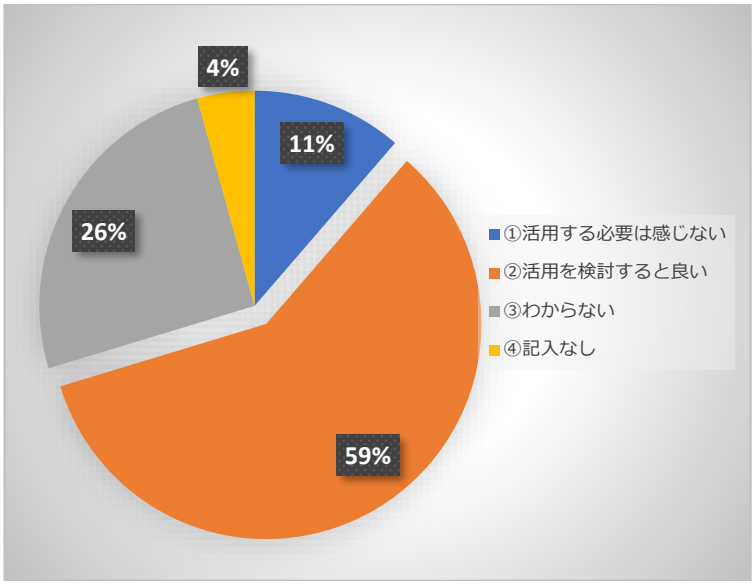
〔10～20 代の回答〕



10～20 代での回答も「活用を検討すると良い」と考える方が最も多く約半数を占めています。

①活用する必要は感じない	14
②活用を検討すると良い	61
③わからない	32
④記入なし	10
計	117

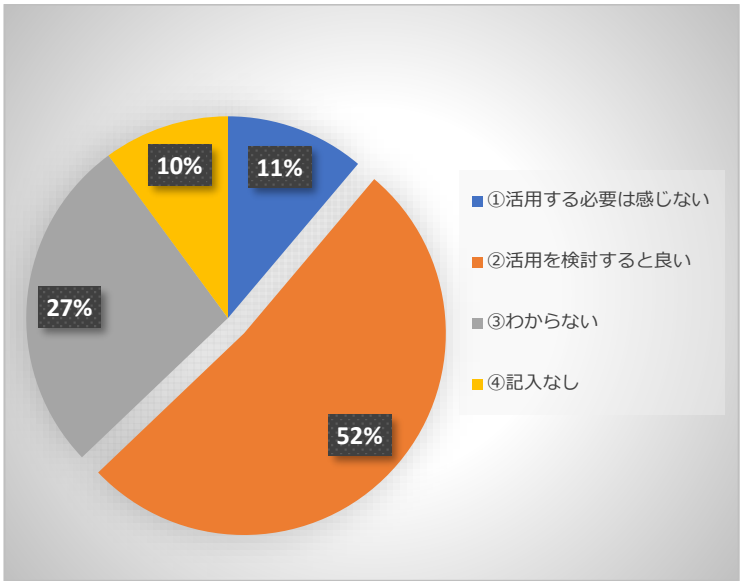
〔30～40 代の回答〕



30～40 代での回答も「活用を検討すると良い」と考える方が多く半数以上を占めています。

①活用する必要は感じない	29
②活用を検討すると良い	151
③わからない	65
④記入なし	11
計	256

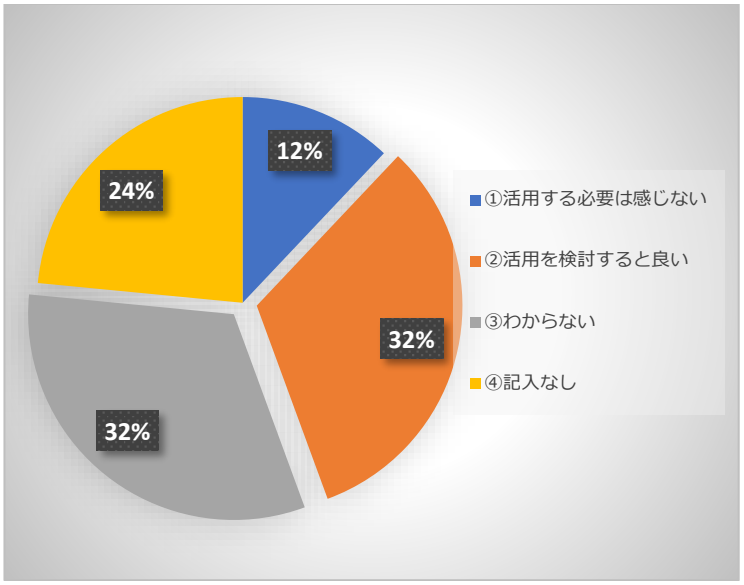
〔50～60 代の回答〕



50～60 代の回答も「活用を検討すると良い」と考える方が最も多く約半数を占めています。

①活用する必要は感じない	52
②活用を検討すると良い	241
③わからない	126
④記入なし	47
計	466

〔70 代以上の回答〕



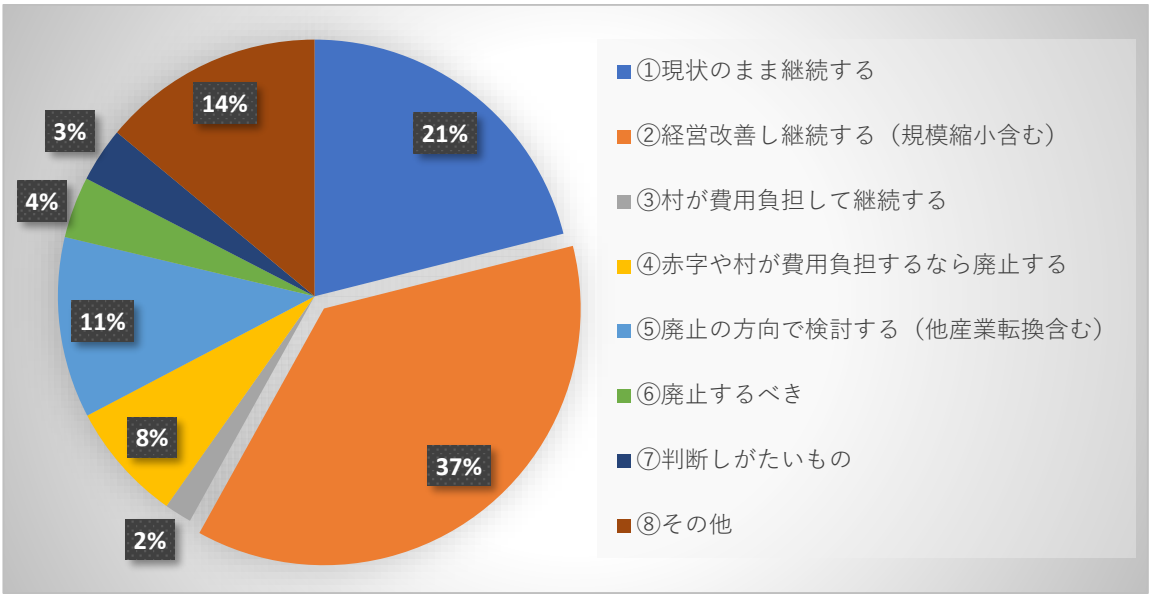
70 代以上の回答は「活用を検討すると良い」と考える方が多いものの全体の 32%となっています。

①活用する必要は感じない	57
②活用を検討すると良い	153
③わからない	152
④記入なし	111
計	473

8　自由記述の中からの集計

村民皆さまの意識の傾向を把握するため、自由記述の内容を、下記のとおり８項目に分類しました。様々なご意見をいただきましたので、一概に分類できるものではありませんが、何らかの方法により「継続を希望」されている方が 60%、「廃止の方向」や「廃止すべき」と考えておられる方が 23%、その他の意見の方が 17%となりました。

①現状のまま継続する。
②経営改善し継続する。（規模縮小含む）
③村が費用負担して継続する。
④赤字や村が負担するなら廃止する。
⑤廃止の方向で検討する。
⑥廃止すべき
⑦判断しがたいもの
⑧その他



①現状のまま継続する	98
②経営改善し継続する（規模縮小含む）	172
③村が費用負担して継続する	8
④赤字や村が費用負担するなら廃止する	35
⑤廃止の方向で検討する（他産業転換含む）	53
⑥廃止すべき	18
⑦判断しがたいもの	16
⑧その他	65
計	465